

アーツカウンシルさいたま 2023年度アニュアルレポート

アーツカウンシルさいたま 2023年度アニュアルレポート

発行日: 2025年1月24日

発行者: アーツカウンシルさいたま

デザイン: 川瀬あゆみ

印刷: とぎわ印刷株式会社

お問合せ

アーツカウンシルさいたま(公益財団法人さいたま市文化振興事業団内)

〒336-0024 埼玉県さいたま市南区根岸1-7-1さいたま市文化センター4階

営業時間/ 火～土曜日9:00～17:00(日・月・祝日休み)

※月曜日が祝日の場合、火曜日も休み

Tel/ 048-767-5350

E-mail/ artscouncil@saitama-culture.jp

WEB/ <https://saitama-culture.jp/aboutus/>

facebook/ [artscouncil.saitama](https://www.facebook.com/artscouncil.saitama)

X/ [@artscouncilSITM](https://twitter.com/artscouncilSITM)

note/[artscouncil_sitm](https://note.com/artscouncil_sitm)

2023 ANNUAL REPORT

さいたま市は、交通面でも利便性が高く、住みやすさを実感できる生活都市です。アートカウンシルさいたまは、市民の方々の日々の暮らしの中で文化芸術に触れる機会を増やし、生活の多様な場面で創造活動が行われる環境をつくっていくことを目指し、2022年10月に設立されました。

アートカウンシルという組織は、行政とは離れた第三者的な立ち位置をとりながら、文化芸術を専門とするスタッフがアーティスト・文化団体と行政との間に立って仲介を行い、公的な資金によって文化芸術事業への支援や環境整備を行う機関で、世界の様々な国/地域に存在します。日本においては、さいたま市だけではなく、横浜市、東京都、沖縄県、大阪府/市、新潟市、静岡県、長野県など各地に設立されています(2025年1月現在)。

さて、2023年度は、2022年10月の組織設立から2年目の年となります。新型コロナウイルスによる感染症対策も緩和され、本格的に事業をスタートする年になりました。

さいたま市では文化団体への支援をアートカウンシル設立以前より補助制度等により行ってきましたが、アートカウンシル設立後は資金面の支援だけではなく専門的なスタッフが支援先の活動を申請時からフォローし、活動がより良いものになっていくように伴走支援しています。

活動場所を探している方から新事業についての壁打ち的(アイデアを他人に話すことで、考えを整理する)な内容まで、幅広い相談にも対応する窓口も設けています。

2023年度はさいたま国際芸術祭2023の実施年でもあり、アートカウンシルさいたまも芸術祭と連携をとりながら、市民プロジェクト・キュレーター事業や公募プログラムなど特別な事業も行いました。芸術祭初回の2016年以降、市民サポーターが、芸術祭が行われていない年であっても自発的に活動を続けていて、公募プログラムにはそうした市民サポーターによる企画も多く見られました。また、そのような活動が生まれるきっかけづくりとなるような「サポーターミーティング」を月に一度開催してきました。芸術祭が一過性のイベントで終わるのではなく、種となって、市内で文化芸術活動が芽吹き育まれていることが改めて顕在化する機会になりました。

支援事業のほか、自ら文化芸術を創造していく事業として、新たに芸術家が一定期間さいたま市に滞在し、作品制作を行うアーティスト・イン・レジデンスのパイロットプログラムとして実施した「公募プロデューサー事業」や、市民とともにさいたま市内の文化資源を調査する「アート資源調査」、公募による研究員とともにテーマを決めてリサーチを行う「研究アソシエイト事業」などに取り組みました。

このアニュアルレポートでは2023年度に実施した様々な取り組みを紹介しています。私どもアートカウンシルさいたまの活動の一端をご覧いただくと幸いです。

今後もさいたま市で暮らす方々の生活のなかで、文化芸術による楽しみや豊かさがある日常を目指し事業を続けていきます。

アートカウンシルさいたまプログラムディレクター 森隆一郎

- 02 アートカウンシルさいたまについて
- 04 さいたま文化芸術都市創造助成金
- 08 さいたま国際芸術祭2023公募プログラム
- 11 生活と文化芸術活動の橋渡し(リエゾン)事業
- 12 さいたま国際芸術祭2023市民プロジェクト
- 14 公募プロデューサー事業「さいたまで表現を創る」
- 17 さいたま文化発信プロジェクト「MAP OMIYA 2023」
- 18 さいたま文化発信プロジェクト「空想するさいたま」
- 21 国際芸術祭等により創出されたレガシー事業
- 22 研究アソシエイト事業／調査研究事業
- 23 事業報告会
- 24 広報発行物
- 25 編集後記

アーツカウンシルさいたまは、文化芸術を支援する専門組織として2022年10月にさいたま市に創設されました。あらゆる人に文化芸術を創造・享受する機会を提供し、心豊かに生活できるまちを創出することを目指し、「暮らしの中で文化芸術と触れ合う機会の増加」「文化芸術の新たな創造環境の創出」「文化芸術を通じて、将来のさいたま市を考える」ことに取り組みます。2023年度はさいたま市内の文化芸術団体等への助成支援をはじめ、東京藝術大学と連携したさいたま市の魅力ある文化を発信する事業「空想するさいたま」、調査員を募集し文化芸術活動に関する研究を行う「研究アソシエイト」などを展開しました。

ビジョン

あらゆる人に、文化芸術を創造・享受する機会を提供し、心豊かに生活できるまちを創出する

ミッション

- 市民が暮らしの中で文化芸術と触れ合う機会を増やします
- 文化芸術の新たな創造環境を創出します
- 文化芸術を通じて、将来のさいたま市を考えます

組織体制

事務局

- (公財)さいたま市文化振興事業団に設置
- 文化芸術に造詣が深い専門人材であるプログラムディレクター(以下、PD)と、その補佐を行うプログラムオフィサー(以下、PO)を設置し、専門性を生かした幅広い支援を行う

2023年度アーツカウンシルさいたま スタッフ

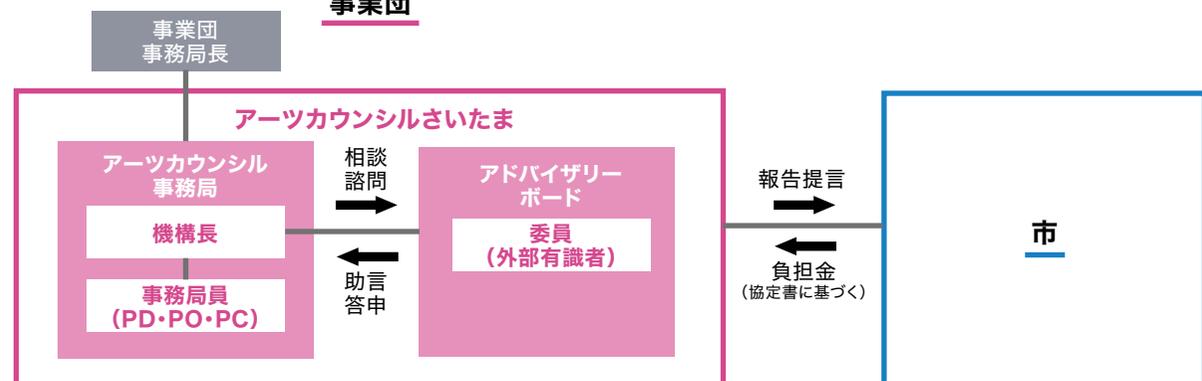
機構長:小野瀬淑子
 プログラムディレクター(PD):森隆一郎
 プログラムオフィサー(PO):三浦匡史/屋宜初音(2024年1月~3月)
 プログラムコーディネーター(PC):伊藤崇/大須賀有希(~10月)/米本大樹/佐藤安里紗(10月~)

アドバイザーボード

- 運営に関する相談等を行う有識者組織を設置
- 文化芸術活動の支援に関する方向性やアーツカウンシル取組内容のほか、市への政策提言等に対する助言を行う

芹沢高志 (P3 art and environment 統括ディレクター、さいたま国際芸術祭2023プロデューサー)
 石上城行 (埼玉大学教育学部教授、彫刻家)
 小沢 剛 (東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授、美術家)
 小林桂子 (日本工業大学先進工学部情報メディア工学科准教授、元・日本芸術文化振興会プログラムオフィサー)
 若林朋子 (立教大学大学院社会デザイン研究科特任教授、プロジェクト・コーディネーター)

事業団



文化芸術活動支援事業

文化芸術活動に対する助成事業

- さいたま文化芸術都市創造助成金「文化芸術都市創造事業」
- さいたま文化芸術都市創造助成金「文化芸術を生かした地域活性化事業」
- さいたま国際芸術祭2023公募プログラム

生活と文化芸術活動の橋渡し(リエゾン)事業

- 相談窓口

文化芸術創造事業

国際芸術祭等により創出されたレガシー事業

- 市民サポーター事業
- 公募プロデューサー事業「さいたまで表現を創る」
- さいたま国際芸術祭2023市民プロジェクト
- さいたま国際芸術祭2023報告展示会～「見逃す、芸術祭。」をつかまえる～

さいたま文化発信プロジェクト

- MAP OMIYA 2023
- 空想するさいたま

調査研究事業

調査研究事業

- 調査研究事業
- 研究アソシエイト事業
- 事業報告会

さいたま文化芸術都市創造助成金

概要

文化芸術都市の創造に向けて、市民の自主的な文化芸術活動の促進及びさいたま市の文化芸術の振興を図るため、文化芸術団体等が市内で実施し、一般に公開する文化芸術事業に対して行っている助成事業です。

①上限額20万円(1/2助成)の「文化芸術都市創造事業」と、②上限額200万円(10/10助成)の「文化芸術を生かした地域活性化事業」があります。この助成事業は、2022年度までさいたま市が実施していた「文化芸術都市創造補助金」を移管し、アーツカウンシルさいたまで実施することになりました。

事業別の特色として「①文化芸術都市創造事業」では、さいたま市で文化芸術活動が続けていること自体を貴重なことと捉え、提案のあった全企画を採択しました。「②文化芸術を生かした地域活性化事業」は、地域の祭りに芸術に関するプログラムを取り入れたものや、地域映画祭、現代美術に特化したアートフェスティバル、今後の活躍が期待される若手への登竜門となる企画や次世代育成を意識した取り組みなど規模の大きな事業の応募がありました。応募状況としては、「①文化芸術都市創造事業」「②文化芸術を生かした地域活性化事業」ともに、概ね前年までの応募団体による継続案件が大勢を占める中、2023年3月に募集した「さいたま国際芸術祭2023公募プログラム」が呼び水になったと見られる新規団体からの応募も散見されました。コロナ禍後の落ち着きと社会活動の回復に伴って、申請件数、申請金額ともに増加してきています。

2023年度実績

	申請数 (件)	採択数 (件)	申請金額 (円)	採択金額 (円)	交付金額 (円)
①文化芸術都市創造事業	56	56	9,288,000	8,209,000	7,991,000
②文化芸術を生かした地域活性化事業	9	8	14,736,000	9,780,000	9,780,000
	65	64	24,024,000	17,989,000	17,771,000

①文化芸術都市創造事業 採択56件

団体名	事業名	日程	会場	観客等の人数 (出演者数)
ルナ・マンドリーノ	ルナ・マンドリーノ 第38回定期演奏会	4/9	埼玉会館	1,100(31)
大宮美術家協会	第34回大宮美術家協会展	4/22-27	RaiBoC Hall	873(74)
さいたま市合唱浦和の会	春の合唱祭	4/23	さいたま市文化センター	400(560)
(劇)レインボウ城!	市民コメディ こどもの日 スペシャルボランティア公演	5/4-5	片柳コミュニティセンター	210(16)
女声合唱団浦和アーベント コール	女声合唱団浦和アーベント コール第4回定期演奏会	5/20	さいたま市文化センター	100(15)
大宮器楽協会	第50回さいたま市民音楽祭おみや 「器楽フェスティバル」2023	5/20	プラザノース	300 (100)
大宮シンフォニーオーケストラ	大宮シンフォニーオーケストラ 第18回定期演奏会	5/20	RaiBoC Hall	300 (60)
リーダークライス	リーダークライス20周年コンサート —今、ふたたび羽ばたく—	5/21	さいたま市文化センター	130 (15)
おみやや市民吹奏楽団	おみやや市民吹奏楽団 ジョイントコンサート2023	5/21	RaiBoC Hall	1,070 (117)
さいたま市童謡おみやの会	さいたま市童謡おみやの会 30周年記念大会	5/29	RaiBoC Hall	225 (70)
女声あさんぶるハミングバズ	Let's Enjoyオペラコンサート Vol.10	6/17	RaiBoC Hall	141 (33)
さいたま市中央区美術家協会	第21回さいたま市 中央区美術家協会展	6/19-25	与野本町コミュニティセンター	640 (72)
大宮フィルハーモニー管弦楽団	大宮フィルハーモニー管弦楽団 第45回定期演奏会	6/25	RaiBoC Hall	1,077 (85)
与野吹奏楽団	与野吹奏楽団第25回定期演奏会	7/2	さいたま市文化センター	700 (53)
オリババとトランペットが吹き隊	第37回DO!素人吹き自慢大会	7/8	プラザウエスト	150 (50)
朗読グループ《声の会》	リーディングドラマ『眠れ マクベス』	7/17	埼玉会館	544 (16)
音楽を楽しむ会	～世界の海から音楽を～ サマーコンサート	7/23	浦和コミュニティセンター	70 (20)
さいたま子どもミュージカル	さいたま子どもミュージカル 第5回記念公演「魔女バンバ」	8/20	RaiBoC Hall	1,211 (30)
音故知新	音故知新・夏のファミリーコン サートvol.1「おとボックス2023」	8/22	プラザイースト	113 (4)
彩多会	第5回彩多会展示会	9/4-10	大宮図書館	600 (39)
浦和新舞踊連盟	第47回浦和新舞踊連盟発表会	9/24	埼玉会館	1,500 (210)
楽しい朗読クラブ	楽しい朗読クラブ35周年記念 朗読の会～ことばを慈しんで～	10/1	さいたま市産業文化センター	290 (12)
Kohsetsu,24/7	Dance Suplex MASTABA	10/7-12/10	さいたま市青少年宇宙科学館	300 (3)
さいたま市三曲協会	第23回三曲演奏会	10/9	埼玉会館	132 (87)
女声合唱団きらり	女声合唱団きらり15周年記念演奏会	10/9	RaiBoC Hall	371 (33)
さいたま市浦和吟剣詩舞連盟	2023さいたま市民文化祭 第54回近代吟詠と剣詩舞の会	10/14	さいたま市文化センター	200 (170)
さいたま市茶道会	さいたま市茶道会 秋のお茶会	10/15	恭慶館	160 (50)
趣味の会文化祭実行委員会	趣味の会文化祭/ ①全日本写真連盟浦和支部写真展 ②七彩会作品展	①10/17～22 ②10/22～26	①埼玉県立近代美術館 ②さいたま市民活動サポート センター	1,180 (28)

団体名	事業名	日程	会場	観客等の人数 (出演者数)
混声合唱団「レッツ・スィング」	混声合唱団「レッツ・スィング」 創立20周年記念コンサート	10/22	RaiBoC Hall	250 (21)
シリーズの会	彩の国歌と音楽の祭典シリーズの 会コンサート	10/23	RaiBoC Hall	140 (18)
子育て応援みに北会	第16回ベビーカーコンサートin北区	10/28	プラザノース	185 (10)
さいたま市音楽家協会	さいたま市音楽家協会 第54回定期演奏会	11/4	さいたま市文化センター	200 (19)
吹奏楽団 THE NOISE	吹奏楽団THE NOISE 第27回演奏会	11/4	プラザノース	213 (45)
ヒアシンスハウスの会	第19回ヒアシンスハウス夢まつり	11/4	別所沼会館ほか	80 (20)
さいたま市浦和俳句連盟	二〇二三年度さいたま市浦和俳句 連盟文化祭俳句大会	11/19	浦和コミュニティセンター	54 (104)
世界文化料理交流会	秋を楽しむコンサート 2023	11/26	浦和コミュニティセンター	72 (19)
あんさんぶるぼぶり	女声合唱団あんさんぶるぼぶり 第2回定期演奏会	11/24	武蔵浦和コミュニティセンター	160 (13)
星の子合唱団	しあわせ歌にのって ～星の子合唱団ミニコンサート～	11/25	さいたま市産業文化センター	150 (20)
さいたま和太鼓振興会	第30回記念さいたま 太鼓エキスパート2023	11/26	RaiBoC Hall	1,388 (126)
大宮箏曲協会	第52回箏曲演奏会	11/26	氷川の杜文化館	70 (24)
さいたま合唱協会おのみや	第51回さいたま市民音楽祭 おのみや(合唱フェスティバル)	12/3	ソニックシティ	368 (1,014)
女声コーラス野ばら	100人の歌声コレクション#04 「はじめましてシュベルトさん」	12/3	浦和コミュニティセンター	78 (29)
La.Musi〜ca	La.Musi〜ca Presents Christmas concert	12/9	さいたま市文化センター	204 (10)
一般社団法人友音楽協会	第4回 彩の国ミュージックフェスティバル	12/23ほか	さいたま市文化センターほか	1,000 (198)
浦和吹奏楽団	浦和吹奏楽団第9回POPS CONCERT	2024年1/7	埼玉会館	651 (62)
大宮吹奏楽団	大宮吹奏楽団第34回定期演奏会	2024年1/14	さいたま市文化センター	650 (75)
パドシャバレエサークル	Ballet Concert	2024年1/14	プラザウエスト	400 (41)
さいたま Jr. オーケストラ	さいたま Jr.と仲間たちコンサート	2024年1/28	プラザノース	330 (70)
歌声の集い	みんなで楽しむコンサート	2024年1/28	浦和コミュニティセンター	32 (10)
浦和混声合唱団	浦和混声合唱団第33回定期演奏会	2024年2/4	埼玉会館	576 (38)
ソフィア	ソフィア第五回 明るい街づくりコンサートショー	11/16	さいたま市文化センター	30 (10)
ダ・ヴィンチ音楽事務所	親子で楽しむホルンアンサンブル& ソプラノ音楽会 ～音楽で綴るさい たま歴史「見沼の大地」～	2024年2/17	プラザウエスト	66 (7)
埼玉県いけばな連合会	第58回埼玉県いけばな連合会展	2024年2/23-25	埼玉会館	2,533 (202)
東大宮演劇祭実行委員会	第18回東大宮演劇祭	2024年2/24-25	東大宮コミュニティセンター	400 (19)
るふとぼうぜ	るふとぼうぜ～空気のおやすみⅢ～ 埼玉でクラシック音楽を	2024年3/3	浦和音楽サロン TUTTO BUONO	29 (3)
さいたまシティ ジュニアコーラス	さいたまシティジュニアコーラス 7th concert—歌声の響く街に—	中止		

②文化芸術を生かした地域活性化事業 採択8件

団体名	事業名	日程	会場	観客等の人数 (出演者数)
ギターやろうぜ! inさいたま実行委員会	ギターやろうぜ!inさいたま	7/29	サウスピア	50(6)
好きです指扇! アートフェスタ実行委員会	好きです指扇!アートフェスタ	8/19	指扇中学校体育館ほか	30,000(750)
ノーマライゼーション・アート・ コミュニティ実行委員会	ノーマライゼーション・アート・ コミュニティinおのみや	9/9-14ほか	JR大宮駅南コースほか	12,000(500)
第12回人形のまち岩槻総合 文化芸術祭実行委員会	第12回人形のまち岩槻 総合文化芸術祭	9/30-10/9	岩槻駅前クレセントモールほか	8,723(263)
さいたま夢KANA 音楽祭実行委員会	さいたま夢KANA音楽祭2023	11/19	RaiBoC Hall	230(36)
岩槻映画祭実行委員会	第8回岩槻映画祭	2024年2/10-11	市民会館いわつき	275(31)
SAITAMAなんと か映画祭実行委員会	第4回SAITAMAなんと か映画祭	2024年3/2-3	RaiBoC Hallほか	443(100)
アーツさいたま・ きたまち実行委員会	アーツさいたま・ きたまちフェスタVol.10	2024年3/22-24	ステラタウン大宮ほか	1,000(9組)

コメント

(2023年度事業報告会での発表より抜粋)

ギターやろうぜinさいたま 私たちの団体は、プロのギタリストとギター製作者からなるグループです。若い世代にクラシックギターを広めたいという思いがあり、活動をはじめました。子ども向けの体験型のイベントは無料で楽しんでもらえるようにしたいのですが、そうすると収入が無くアーティストへの謝礼等支払いができなくなってしまうので、どうしようかと思っていた時にこの助成金を知り、サポートしてもらえたのでよかったです。

好きです指扇!アートフェスタ 指扇中学校体育館では、地元の小・中学校の吹奏楽部の演奏披露、小学校合唱部が出演しました。また、公民館会場では子ども工作教室を実施しました。滝沼川遊水地では、指扇地区囃子保存会による演舞披露、ダンススクールの子ども達の舞台や、風船王子によるアートパルーション、マーチングバンド演奏と盛沢山の催し物を行いました。また、地元「秋葉ささら獅子舞」演舞、大宮鷹職組合による「木遣りや梯子のぼり」を披露し、楽しんでもらいました。

ノーマライゼーション・アート・コミュニティinおのみや 子どもたちや高齢の方々の文化的な創作発表をしました。作品展示は、団体を広く知ってもらう機会や、感性豊かな作品に触れて理解を深めてもらう機会にもなりました。大宮こどもトリエンナーレ作品展示では、家族連れでお子さんの絵を見る光景が見られ、親子の交流の機会となっています。シニア発表会は、新型コロナウイルスが5類感染症に移行になったことで、参加者同士の交流の場が持て皆楽しく過ごし、結果、健康につながれると思っています。

第12回人形のまち岩槻総合文化芸術祭 岩槻駅前のクレセントモールでは、日替わりでオープニングや手作り作家マルシェ等を行いました。岩槻駅前ワッツ西館ミニホール、アトリウムでは、プロによるコンサート、ラテン音楽祭等を行いました。本丸公民館では、音楽フェス、市民音楽祭等を実施しました。ワッツ東館の3階廊下では、ワークショップ作品の展示をしました。また、障害者スポーツ体験テニスや、商店街の店舗内で絵画や陶芸、書、華道体験を実施しました。

第8回岩槻映画祭 この映画祭は、立ち上げて10年が経ちますが、実際には8回しかやっていません。映画祭の規模が大きくなったことで大変になり、単純に辛かったからです。でも、過去の受賞した監督へのリスペクトがあり、存在していない映画祭の受賞歴は価値が無いので、第10回までは続けたいと思いき直し、奮起しました。復活させて2回実施しましたが、やはり辛い。そこで今回は、助成金をとってゆとりのある運営をしたところ、大成功につながりました。

さいたま夢KANA音楽祭2023 「さいたま市に新しい文化を創造しよう!」との思いで埼玉中央青年会議所の仲間達で「夢叶うまち・さいたま!」というまちのイメージ浸透をさせていこうと計画しました。当初は2つのコンテンツだけでしたが、回を重ねるごとに歴代グランプリの出演やゲスト出演など6時間以上に及ぶ大音楽祭となりました。毎年期待されているお客様も多く、運営側としては心強く励みにもなっています。

第4回SAITAMAなんとか映画祭 今回で第4回ということでRaiBoC Hallの小ホール、門街広場、大宮駅西口の武蔵野銀行2階M's SQUAREで、市民の方や地元ボランティアの方のご協力も得て実施することができました。今までコンペティションは30分以内の部門だけをやっていましたが、スマホでも撮って制作できるような3分と、映画館でも展開ができそうな60分という部門を新しく増やしました。

アーツさいたま・きたまちフェスタVol.10 アーツさいたま・きたまちフェスタも10回目になりました。機械仕掛けのアートタウンという副題をつけ、テーマをハイテクとローテクが融合するアートフェスタということにしました。動く作品、機械仕掛けのものが多いのですが、この機械仕掛けを皮肉ったローテクのアート作品も多く展示させていただきました。

さいたま国際芸術祭2023公募プログラム

概要

さいたま国際芸術祭2023の市民と共に芸術祭をつくりあげるプログラムとして実施しました。アーツカウンシルさいたまでは、芸術祭公募プログラムの制度設計や審査にかかるマネジメント、企画実現のための伴走支援などに取り組みました。

採択数/申請数 7件/61件

採択区分 負担金額 A:10万円、B:30~50万円、C:100~300万円



ハイドロブラスト(太田信吾、竹中香子、MaximeLavret)

事業名: さいたま市民らと創る映画『沼影市民プール』inさいたま市協働制作~公開プロジェクト
 日時: 12月6日(上映会)
 会場: 浦和コミュニティセンター 多目的ホール(さいたま市浦和区東高砂町11-1)
 人数: 564人
 概要: 閉鎖・解体が決定した沼影市民プールを主なロケ地とし、『死の受容のプロセス』を提唱するキューブラー・ロスの著書を参照しながら、「再開発」をテーマとした映画を制作・上映した。また沼影市民プールの「記憶」を残すべく、ワークショップも開催した。
 採択: Cコース



坂根大悟

事業名: 和紙障子プロジェクト「大宮曼荼羅」
 日時: 11月23日~26日
 会場: 盆栽四季の家(さいたま市北区盆栽町267-1)
 人数: 246人
 概要: 投影光を裏側に透過しにくい和紙障子に映すプロジェクトマッピングの展示会を実施。表には、さいたま市内120の地名と伝説をイラスト映像化し、障子の枠一つひとつにそれぞれ異なる映像を投影、裏には作家が撮り歩いたさいたま市などをコラージュ映像として投影した。過去と現在という相反する要素を同一の障子枠内で表現することにより、特徴がないと言われがちな、さいたま市のアイデンティティを相反する時間軸から捉え直すことを試みた。
 採択: Bコース



チームシャボン(小泉文、hacha、古川由徳、よこうちともひろ)

事業名: シャボン da さいたま ~レンズの向こうのわたしとワタシ~
 日時: 11月3日~12月10日の金土日祝日
 会場: STUDIO・45(さいたま市浦和区高砂4-3-1-103)
 人数: 157人
 概要: シャボン玉を自分に重ね、カメラで「わたし」が「ワタシ」(シャボン玉)を写し、来場者が撮影した作品を会場内に展示する参加型インスタレーションを展開した。シャボン玉をつくるワークショップとVRの体験も実施した。
 採択: Bコース

審査員 芹沢高志(審査員長/さいたま国際芸術祭2023プロデューサー) 久野敦子(公益財団法人セゾン文化財団常務理事)
 大越久子(埼玉県立近代美術館学芸員) 川田泰則(さいたま国際芸術祭2023事務局長)
 滝口明子(うらわ美術館学芸員) 森隆一郎(アーツカウンシルさいたまプログラムディレクター)
 遠山昇司(さいたま国際芸術祭2020ディレクター)



大宮子ども部

事業名: アートへのはじめのいっばい!行ってみよう!さいたま国際芸術祭!【子ども向けアート鑑賞会】
 日時: 10月29日、11月12日、26日
 会場: さいたま国際芸術祭2023メイン会場 (さいたま市大宮区下町3-47-8)
 人数: 158人
 概要: アートコミュニケーターが小・中学生、高校生を対象に、さいたま国際芸術祭2023メイン会場で対話型鑑賞ツアーを実施した。「アートへの入り口」となるよう芸術鑑賞への関心を広げることを目指した。
 採択: Bコース



toshi.tajima (PhotoArtist)、ノン(造形作家)、柿山満雄(カメラマン)、陽だまり陽sun(写真家)

事業名: 作品展「見沼の愛」&ワークショップ作品展示・写真ワークショップ「ふぉっと見沼る?」
 日時: 10月11日~11月11日の水~土
 会場: コンドウハウス(さいたま市緑区三室680-1)
 人数: 255人
 概要: 参加者が発見した見沼の良さを撮影し、写真を使った作品を制作する市民参加型のワークショップと、見沼の自然を中心とした作品を展示した「見沼の愛」展を開催した。
 採択: Bコース



窓(名取萌音・笹尾麻衣)

事業名: In our homeland
 日時: 11月18日、12月1日
 会場: 山丸公園(さいたま市大宮区吉敷町1-120-1)
 人数: 196人
 概要: 低空エアリアルユニット「窓」による、身体表現と空中パフォーマンスを組み合わせた現代サーカス作品。音楽・ゲスト出演に古山詞穂を迎え、山丸公園に設置された「旅立ち」の像をテーマに、発車メロディや汽笛を想起させるオリジナル楽曲と共に上演した。
 採択: Bコース



hash out project/はまたんぺ(濱田凌)

事業名: しまった写真展(仮)
 日時: 10月28日~11月26日
 会場: 大宮門街WEST1階、5階(さいたま市大宮区大門町2-118)
 人数: 521人
 概要: スマートフォンなどで勝手に撮られて「しまった」写真を来場者がその場で印刷・自由に壁に貼り付けながら日々作品が増えていくインスタレーション展示を行った。集められた写真は、匿名性の高さで没個性であるが故に建築と写真におけるヴァナキュラーの双方の意を併せ持つ。それらを新しいヴァナキュラー写真と名付けた。
 採択: Aコース

実施者コメント

(2023年度事業報告会での発表より抜粋)



ハイドロブラスト(太田信吾、竹中香子、MaximeLavret)

いろんな立場の方と協働して脚本をつくり撮影ができたと思っています。この映画はまだ、僕にとってスタートでしかないと思ってまして、追加撮影をつづけています。



坂根大悟

「企画提案の段階で、展示場所を確保する」という条件がかなりタイトでした。今回は幸運にも盆栽四季の家の協力を得ることができましたが、事前に展示場所を確保し、公募作品に応じて、採用決定後に展示場所を差配できれば、応募者の負担軽減につながり、魅力的な企画が集まる可能性が高くなるのではないかと思います。また、この展示を一つのきっかけとして、4月より大学院の映像研究科に進学することになりました。



チームシャボン(小泉文、hacha、古川由徳、よこうちともひろ)

私は、STUDIO・45という昔は写真スタジオだった場所を、2年ほど前からイベント等もできるスペースとして運営しています。これまで関わりのあった方々に色々お声をかけていただいて、チームシャボンとして、色々な方々にお力添えをいただいて企画を開催しました。



大宮子ども部

アートコミュニケーターと一緒に色々な表現をみんなで見て話して、アートへの入り口を見つけ、正解にこだわらない楽しさ、面白さを知るプログラムです。「わたしは〇〇と思ったけど、お友達は〇〇だったよ」と、それぞれの違いを受け取る親子の会話も聞くことができました。アートコミュニケーターとして沢山の笑顔に囲まれて、良い鑑賞体験の場を作れたこと、とても嬉しく思います。



toshi.tajima (PhotoArtist)、ノン(造形作家)、柿山満雄(カメラマン)、陽だまり陽sun(写真家)

食事や喫茶目的でコンドウハウスを訪れた方も作品を観て、「見沼の美しさが伝わってきた」「自分も見沼の自然を写真で撮ってみたい」などの感想をいただくことができ、地元の良いことやアートへの興味・関心を持ってもらうことができたと感じています。



窓(名取萌音・笹尾麻衣)

今回の作品は芸術祭のテーマである「わたしたち」から創作をスタートしました。当初は大宮公園での回遊型の作品を予定していましたが場所の選定に苦戦していたところ、アーツカウンシルさいたまのアドバイスにより本会場のお隣である山丸公園で実施することとなりました。2日目の公演日には天気に恵まれ子どもたちの観覧も多く、実り多い上演になったと感じています。



hash out project/はまたんぺ(濱田凌)

いつ、どこで、誰が、何を撮ったのかという、写真にとっては大事な情報が曖昧であることが「しまった写真」の大きなテーマになっていて、間違っ撮ってしまったり、ポケットの中にカメラを入れていたら勝手に撮影されていたといった写真を扱おうと思ったことが展示のきっかけでした。

生活と文化芸術活動の橋渡し(リエゾン)事業

概要

市内の文化芸術を軸とした活動を行う団体や個人をサポートする無料相談窓口を開設しています。メール等での問い合わせに対応するほか、希望者にはPDとPOが相談員となり、対面相談も行います。活動や助成事業に関する相談のほか、市内の文化資源にかかわる情報提供やマッチングなどを行っています。

2023年度実績

相談件数全28件

相談例①

さいたま市に引っ越してきた。市内で制作活動や発表ができる場所を知りたい。

相談員からの回答

相談者の活動状況や活動目標を聞き取り。それをもとに、アート資源調査でリサーチした市内の施設をいくつか提案しました。

相談例②

個人で文化に関する活動をしている。
ネットワークを広げていき、ゆくゆくは大きなイベントを実施したい。

相談員からの回答

相談者の近隣地域で活動している他の団体や、イベントなどを紹介。
活動に伴走して、今後も相談や情報交換を続けていくことを提案しました。

さいたま国際芸術祭2023市民プロジェクト

さいたま国際芸術祭2023の一環として実施しました。主に市内在住のアーティストなどが参加し、市内全域で多彩なプログラムを展開しました。3名の市民プロジェクト・キュレーターによるプログラムでは、文化芸術活動がこのまちに根ざし、育まれていることを発信しました。

さいたまアーツセンタープロジェクト2023* (キュレーター 浅見俊哉)

「さいたまアーツセンタープロジェクト(SACP)」は、「ライフスタイルにアート。」を合言葉に、日常生活のなかで、誰でもアートに参加する習慣を生み出す「アーツセンター」を創造するプロジェクトです。「創造性」・「リアル」・「対話」のある場をキーワードに展示、レクチャー、ワークショップなど様々なジャンルのプログラムを展開しました。「氷川の杜ひろば」に設けた『SACP BASE』を拠点に、市内8カ所に「アーツセンター」をつくり、芸術祭会期前を「よいまつり期」、芸術祭会期を「おすそわけ」期とし、50のプログラムを展開しました。

事業名	会場	人数
深呼吸する水曜日	RaiBoC Hall (さいたま市大宮区大門町2-118 大宮門街4-8F) ほか	270
金曜日の芸術学校	氷川の杜ひろば (さいたま市大宮区吉敷町1-124-1 大宮図書館内) ほか	98
土曜アーツチャレンジ	氷川の杜ひろばほか	607
スペシャルプログラム「オープニングセレモニー」ほか	氷川の杜ひろばほか	605
メディアプログラム「カルチャーダイブ・トークセッション」ほか	氷川の杜ひろばほか	230
アウトリーチプログラム「仲町小学校アウトリーチ」ほか	市内小学校5校	806
展覧会プログラム「氷川の杜ひろば(SACP BASE)」ほか	氷川の杜ひろばほか	96,707
		99,323



PROFILE 浅見俊哉 / Shunya Asami

美術家・写真作家・造形ワークショップデザイナー。2004年頃から、「時間」と「記憶」をテーマにものを直接感光面に置き一定の太陽光で撮る写真(フォトグラム)を制作。2009年にSMF(サイタマミュージアムフォーラム)のメンバーとなり、さいたまトリエンナーレ2016で「SMF学校」を展開。さいたま国際芸術祭2020では市民プロジェクトコーディネーターを務め「さいたまアートセンター・プロジェクト(SACP)」を実施。2021~2022年はさいたま国際芸術祭レガシー事業でSACPを継続、さいたま国際芸術祭2023では市民プロジェクト・キュレーターとしてSACPを展開した。

アーツさいたま・きたまち (キュレーター 飯島浩二)

さいたま市に点在する「盆栽」「漫画」「人形」「鉄道」をテーマにした施設をアートでつなぐプロジェクト。アーティストの角文平、市川平がさいたま市大宮盆栽美術館、さいたま市立漫画会館、さいたま市岩槻人形博物館、鉄道博物館で新作を発表し、施設間の「道(コース)」も複数の作家たちが手掛ける自転車や車によってアート化しました。イメージは、いくつもの星を渡り歩き、さまざまな出会いを経験していく『星の王子さま』。来場者をさいたまの「文化の星」をめぐるアートの旅へ誘いました。



事業名	会場	人数
CART-SAITAMA2023	ステラタウン大宮 (さいたま市北区宮原町1-854-1) ほか	7,949
ART-CHARI	ステラタウン大宮ほか	8,005
文化施設 味変企画「盆栽美術館」ほか	大宮盆栽美術館/漫画会館 岩槻人形博物館/鉄道博物館	17,049
アーティスト・イン・レジデンス「岩槻プログラム」ほか	space845 (さいたま市岩槻区大口639-1) ほか	105
		33,108

PROFILE 飯島浩二 / Koji Iijima

武蔵野美術大学卒業と同時に作家活動を始める。5年のアメリカ滞在を経て、2011年に帰国。大宮にてNPO法人コンテンツポラリーアートジャパンの理事として「CAJ. Artist in Residence」「アーツさいたま・きたまちフェスタ」を手掛ける。

創発 in さいたま (キュレーター 松永康)

「創発 in さいたま」は、さいたま市内で活動する画廊や美術家に声をかけ、ふだんバラバラに行われている展覧会が一堂に会するというものです。2008年、都内で展覧会を行うさいたま県内の美術家たちに声をかけ、県内で一斉に行ったプロジェクトがその原点です。その後、「美術と街巡り・浦和」(2016~)、「美術と街巡り事業」(2020)の継続を経て、今回のプログラムが実現しました。「創発 in さいたま」では市内14カ所の画廊や公共施設等で展覧会を行いました。

事業名	会場	人数
ギャラリーセレクション/画廊企画事業「安部典子展」ほか	ギャラリー彩光舎 (さいたま市浦和区岸町6-2-1) ほか	5,672
美術家企画事業「埼玉会館 エスプラナード展」ほか	埼玉会館(さいたま市浦和区高砂3-1-4) ほか	11,230
キュレーター企画事業「Women's Lives」ほか	ブラザーズ (さいたま市北区宮原1-852-1) ほか	2,590
海外作家招聘事業「チャ・スンオン展」	つきのみちくさ (さいたま市浦和区岸町4-18-11-1)	250
市民企画事業「さいたま新都心のパブリックアート」ほか	さいたま新都心ほか	1,567
学校連携事業「街をかざるエクストラ」ほか	市内小中学校4校ほか	9,210
広報・記録プログラム「さいたまアートハブズ計画」ほか		21
		30,540



美術家企画事業「国際野外の表現展秋ヶ瀬2023」(秋ヶ瀬公園)

PROFILE 松永康 / Ko Matsunaga

アート・コーディネーター。武蔵野美術大学卒業後、埼玉県立近代美術館学芸員、国際芸術センター青森総括主任学芸員、横浜美術短期大学(現・横浜美術大学)非常勤講師を経て、現在、NPO法人コンテンツポラリーアートジャパン理事。

公募プロデューサー事業「さいたままで表現を創る」

さいたま市内でアーティスト・イン・レジデンス(以下、AIR)を行いながら、表現の場をプロデュースする公募プロデューサー事業を実施しました。AIRとは、芸術家が制作過程を地域住民にひらき、ワークショップや試演発表等による交流を行うことです。

実施者は、額田大志さんと上ノ空はなびさんの2名です。

額田さんは、『しらふの地先へ』という野外劇とドライブツアーの二つのプログラムによる公演を企画し、2024年3月に東京都・海の森水上競技場とその周辺で発表しました。他所での上演という将来的な展開を見据えた、さいたまでの滞在制作と野外劇のワーク・イン・プログレス公演になりました。

上ノ空さんは、世界で活躍するアーティスト達が街中に飛び出し、さいたま市の風景の中で実施する新たなサーカスショーを制作、上演しました。また、滞在期間中には、滞在所の近隣にある幼稚園と連携し、サーカスをベースとした表現ワークショップも開催しました。

滞在所

space845(さいたま市岩槻区大口639-1)

<https://space845.tumblr.com>

さいたま市のはしっこに位置し、田園風景の向こうは春日部市と越谷市。元は住居兼事務所だった建物で、薪ストーブのある広いリビング、作業場や畑もあるオルタナティブスペースです。



滞在所

NPO法人アート応援隊 浦和学院高校岩槻校舎

(さいたま市岩槻区飯塚50)

<https://sites.google.com/view/artoentai/artoentai>

浦和学院高等学校の提携校である国際医療専門学校(旧称 東武医学技術専門学校)が2022年4月に校舎を移転し、現在では浦和学院高校の岩槻校舎となり様々な活用を行っています。



プロデューサーのプロフィール・企画概要

プロデューサー/額田大志(ぬかたまさし)

作曲家、演出家。1992年東京都出身。コンテンポラリーポップバンド・東京塩麴、演劇カンパニー・ヌトミックを主宰。「上演とは何か」という問いをベースに、音楽のバックグラウンドを用いた脚本と演出で、パフォーマンスの枠組みを拡張していく作品を発表している。劇場だけでなく古民家、元小学校、東京タワーの真下、埋立地など様々な場所で作品を上演している。



photo by Fumika Morito

企画概要

企画名:ヌトミック+2.5 architects 共同制作『しらふの地先へ』ワーク・イン・プログレス公演

ヌトミック(出演)

2016年に東京で結成された演劇カンパニー。パフォーマンスの枠組みを拡張していく作品を発表している。俳優のみならずダンサー、ラッパー、映像作家などとのコラボレーションも積極的に行う。主な作品に『それからの街』リクリエーション2020、『ぼんやりブルース』2021/第66回岸田国土戯曲賞最終候補作品、『SUPERHUMAN 2022』など。また「ヌトミックのコンサート」と題したライブパフォーマンスも定期的に開催。

2.5 architects (空間構成)

建築家2人による一級建築士事務所。二次元三次元、自然や風景などをテーマに建築のみならず、インスタレーション、プロダクトデザインと活動の場を広げている。これまでに「青海三丁目地先の肖像」(東京ビエンナーレ2020-2021/東京、2021年)、「日仏建築文化交流展2018」(ASJ TOKYO CELL/東京、2018年)、「連作『Ophelias』」(中之条ビエンナーレ/群馬、2015年)など多くの展覧会に出展。建築作品には「鶴原ビーチハウス」(2017年)などがある。

事業名:ヌトミック×2.5 architects 共同制作『しらふの地先へ』ワークインプログレス公演

日時:2024年2月23日15:15~17:00

※上演前にプレトークを実施

会場:市民会館いわつき(さいたま市岩槻区太田3-1-1)

概要:ある日常を一つのフィクションとして見立て、過去と未来を歩き来しながら、一つの物語を巡っていく。ただ演劇を見るのではなく、劇場を飛び出し、自ら作品へと参加し、屋外だからこそ可能な表現を目指した21世紀のツアー型演劇。演劇だけでなく、建築家、音楽家、美術家による様々なプロフェッショナルが混合したチームによる、現実の空間と時間を飛び越える演劇体験として実施した。

参加者:14人

備考:構成・演出・テキスト・音楽:額田大志

出演:長沼航(俳優)/額田大志(作曲家・演出家)/

原田つむぎ(俳優)/本藤美咲(音楽家)/光岡幸一(美術家)

振付:アグネス吉井

演出助手:清家愛

制作:池田佳穂、河野遥

企画・製作:ヌトミック、2.5 architects

協力:散策者、東京デスロック、株式会社モノファクトリー

実施者コメント(2023年度事業報告会より抜粋)

私自身が、演劇作品をいろんな場所につくったり、土地から着想してつくるということを数年間やってきて、それは楽しいけれども、大変でもある。演劇の一回性という、その場所ではできないという良さはあるつつ、せつ々なのでどこかの土地の物語を違う場所でも上演できないかという複製可能性というのを今回の作品で探りたいと考えました。

概要

「さいたま国際芸術祭2023」の会期に、来場者のまちへの回遊をねらい作成・配布しました。単なるグルメやお土産、歴史スポットの紹介に主眼を置くのではなく、「語り部となれる人」に着目し、その人がどのようなこだわりや思いを持って大宮のまちで商売や活動をしているのか、丁寧な取材に基づいて紹介しました。取材先は、市民サポーターや「アート資源調査(P21参照)」による情報や大宮のまちのキーパーソンからアドバイスを得るなどして選定しました。さいたま市をよく知らない市外の人はもとより市民にとっても、大宮のまちの個性に関心を持ってまち歩きを試みたくなるマップを目指しました。マップ紙面に載せきれない取材情報を伝えるため、オンラインコンテンツも用意しました。
https://note.com/omiyaguide_acs/



プロデューサー/上ノ空はなび(うわのそらはなび)

小学校教諭を経て、ダンスパントマイム劇団上海太郎舞踏公司に入団。劇団解体後、「to R mansion」を結成。全作品のプロデュース、演出を手掛ける。全ての世代を対象とし、豊かなイメージと、視覚的アイデア満載のファンタジックな演出は世界中で愛されている。ミュージシャン、サーカス、美術家など、多分野のアーティストとのコラボレーションなど、その活動は多岐にわたる。山口ゆめ花博「KIRARA RING ナイト・パレード」演出。スマートイルミネーション横浜「中山幻影ウェディング」演出、ニューブランシュ京都2017「祝祭のサーカスがやってきた!」演出等。2020年スウェーデンへの乳幼児舞台芸術のリサーチへ赴き、ベイビーシアター作品の演出・上演も行う。



企画概要

企画名: サイトスペシフィックサーカス〜風と共に創るパフォーミングアーツ〜

スカンクスパンク(演出)

江戸川じゅん兵と上ノ空はなびの何でも演出屋ユニット。脚本・プロデュース・アートディレクションなど総合的に手掛け、劇場やアートイベント、野外フェスティバルなど幅広い分野で展開。風景や場所の空間や歴史の魅力を生かした演出、また地元の人々とアーティストのコラボレーション作品の創出を得意とする。

to R mansion(出演)

18か国84都市の劇場や演劇祭、ストリートフェスティバルから招聘され、世界中で大人気のパフォーマンスカンパニー。時間や空間を变幻自在に操るダイナミックな身体表現と、日本文化特有の繊細さで表現する視覚的演出は、海を越えて高い評価を得ている。神戸ビエンナーレ大道芸コンペティションでグランプリを2度獲得するなど受賞歴多数。

叶結[かなうのっと](出演)

曲芸師・トムと、軽業踊り子・花火のサーカスデュオ。たった2人で本格的なサーカス芸から道化までを演じる。綱渡り、ポールダンス、玉乗りなど幅広く確かな技術で観客を魅了する。2007年世界綱渡り大会第10位、2015年ポールダンス国際大会コメディ部門優勝、2017年シークルストリートパフォーマンスコンテスト優勝、静岡クリスマス大道芸優勝、2018 Nagoya大道芸コンテスト優勝。

事業名: ボンジュールさいたま

日時: 2024年3月9日15:30~ / 10日①11:30~②14:00~

会場: 大宮門街1階「門街広場」
(さいたま市大宮区大門町2-118)

概要: 大宮門街の吹き抜けのスペースで、子どもから大人まで全ての世代が楽しめる大道芸スタイルでのサーカスの上演を実施した。また、地域交流プログラムの一環として、滞在場所近隣の幼稚園の園児(1~2歳)に向けて、参加型のショーやワークショップを実施した。

参加者: 980人

備考: プロデューサー: 上ノ空はなび

演出: スカンクスパンク

出演: to R mansion、叶結、江戸川じゅん平、イーガル

音楽監督: イーガル

現場監督: 橋本隆平(Ail Street LLC.)

当日運営: 奥村優子

実施者コメント(2023年度事業報告会より抜粋)

さいたまで表現をつくるということにこだわっていたので、さいたま市初のニューサーカスという業態で、さいたま市の風景をつかって作品をつくりたいと思い、この事業に応募しました。

さいたま文化発信プロジェクト「空想するさいたま」

概要

「盆栽・漫画・人形・鉄道」をはじめとするさいたま文化のデジタル空間における展開を試みる事業で、東京藝術大学キュレーション教育研究センターと共同で実施したデジタル作品プラン/キュレーションプランの公募プログラムです。参加者29名のうち、14名からプラン13件が最終提出され、2024年3月の最終プラン発表会・選考会では【A】デジタルコンテンツ制作プラン/【B】デジタルコンテンツキュレーション(展示・発表)プランの各部門第1位・第2位を決定しました。採択した4プランは2024年度以降にアーツカウンシルさいたまが伴走支援を行い、実現していく予定です。

主催：アーツカウンシルさいたま(公益財団法人さいたま市文化振興事業団内)、東京藝術大学キュレーション教育研究センター
リサーチツアー協力(見学順)：鉄道博物館、さいたま市立漫画会館、さいたま市大宮盆栽美術館、さいたま市岩槻人形博物館、有限会社靖月人形、株式会社鈴木人形

事業名	日時	会場	概要
第1回 第1部ガイダンス 「企画趣旨説明と期待する作品や企画について」 第2部レクチャー	12月2日 15:00~18:00	東京藝術大学上野キャンパス (東京都台東区上野公園12-8)	第1部・ガイダンス 森隆一郎(アーツカウンシルさいたまプログラムディレクター)、熊倉純子(東京藝術大学国際芸術創造研究科教授、キュレーション教育研究センター副センター長) 第2部・レクチャー 小沢剛(アーツカウンシルさいたまアドバイザー、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授、美術家)、谷口暁彦(多摩美術大学美術学部情報デザイン学科准教授)
第2回レクチャー &施設・街を巡り 学芸員と対話する リサーチツアー1	2024年1月13日 10:00~17:00	鉄道博物館(大宮区大成町3-47) さいたま市立漫画会館(北区盆栽町150) さいたま市大宮盆栽美術館 (北区土呂町2-24-3) さいたま市岩槻人形博物館 (岩槻区本町6-1-1) 有限会社靖月人形(岩槻区本町4-5-9) 株式会社鈴木人形(岩槻区本町3-5-16) その他岩槻市内各所	レクチャー「生活都市さいたまについて」 講師：三浦匡史(アーツカウンシルさいたまプログラムオフィサー)
第3回レクチャー& 施設・街を巡り 学芸員と対話する リサーチツアー2	1月20日 13:00~17:00	同上	同上
第4回講評会	2月17日 14:00~17:00	東京藝術大学千住キャンパス (東京都足立区千住1-25-1)	講師：小沢剛、岡本美津子(東京藝術大学副学長(デジタル推進)、同大学院映像研究科教授)、難波祐子(東京藝術大学キュレーション教育研究センター特任准教授)、森隆一郎、三浦匡史
作品プラン/ キュレーション プランの提出	3月1日 〆切		
プラン発表会・ 選考会	3月10日 14:00~17:00	東京藝術大学千住キャンパス	選考委員：小沢剛、岡本美津子、谷口暁彦、玉置泰紀(株式会社角川アスキー総合研究所・戦略推進室)、森隆一郎、三浦匡史

採択プラン

A デジタルコンテンツ制作プラン

コンセプト文

生活都市、ベッドタウンにおいて、最も重要なのは睡眠である。
人間が睡眠のなかで夢を見てる時が一番自由が感じられると言われ、日常からかけ離れた大胆かつ不思議なイメージが溢れ出す。それは現実だけではなく、歴史や記憶、民話から影響を受けている。
本作は睡眠の深さによって、4段階に分けられる。それぞれの段階とさいたまを代表とする盆栽、人形、漫画、鉄道を結びつけ、夢のなかにしかない面白さや大胆さを表現する。

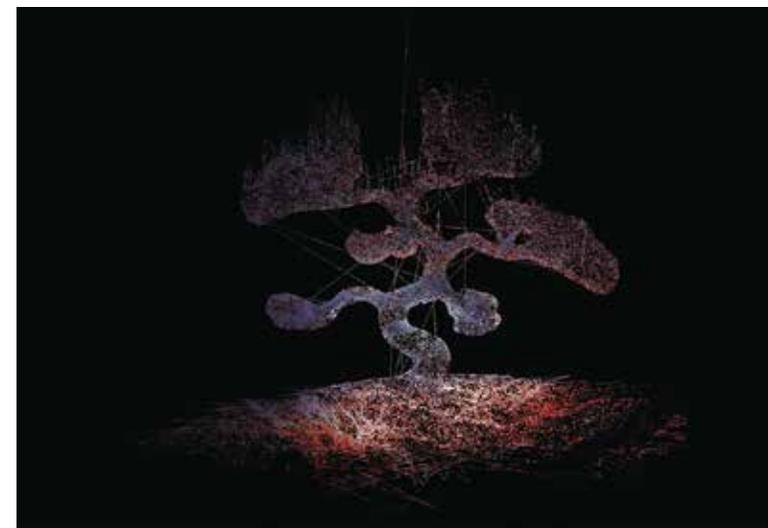
本作品は「盆栽の知覚を通してさいたまの都市の記憶を人々に伝える」をテーマに、植物が互いに信号を伝え合うという埼玉大学の最近の研究にヒントを得て、植物と人間とのコミュニケーションに置き換えて芸術的に表現しようとするものです。さいたまの人々と強く長いつながりと歴史を持つ盆栽に眠る記憶をイメージしMax(※1)とTouchDesigner(※2)でオーディオビジュアル作品を制作します。作品にはさいたま市のサウンドスケープを録音し作中に使用するほか、さいたま市実際の盆栽を使って3Dモデル化をします。また、美術館内にVRルームを作り、鑑賞者が盆栽の中に入れるイマーシブアートを想定しています。

※1: Max(Max/MSP/Jitter)はグラフィカルなインターフェースを備えたプログラム開発環境である。本来(コンピューター)音楽の作曲のために開発されたものだが、その扱いやすさからリアルタイムによる音響合成、パフォーマンスのためのインタラクティブ・システムなどに用いられるようになった。さらにマルチメディア、映像、インターネットなどを用いたメディア・アート作品にも広く用いられている。出典元: Maxサマースクール2024公式HP(https://maxsummer2024.geidai.ac.jp/)
※2: ビジュアルプログラミング言語の一つで、メディアアートの制作時に使用されることの多いソフト。

第1位 徐秋成「夢をみる、さいたま(仮)」



第2位 Zvolinsky Leonid「オーディオビジュアル作品“Sleeping Memory” –盆栽の知覚を通してさいたまの都市の記憶を人々に伝える–」



B デジタルコンテンツキュレーション（展示・発表）プラン

コンセプト文

過去から現在までに、“生活都市”さいたまで営まれてきた生活を未来に向けて記憶・継承することと、デジタルコンテンツや美術の力でふとした日常が、少しでも気づきのあふれる豊かなものになれば、と企画した。「記憶する」ことに共通の特徴がある2組のアーティストと、デジタル技術とユーモアのある柔軟な発想で日常を豊かにする学生の方々、そしてさいたま市民の方々によって4つの博物館を繋ぐ。

第1位 西山夏海「memories of “life”」



第2位 吉岡雄大「SAITAMA HEARTRAIL」



さいたま×電車→埼玉から全国に広がる日本の動脈
さいたまは、ベッドタウンと言われる通り、昼夜の人の流入・流出がとても激しい都市である。それは全国に線路を伸ばし働く人・学ぶ人を巡らせている証拠であり、線路は血管、働く人や学生を血液として捉えた時に、さいたまは日本にとっての心臓といえるのではないかと考えた。電車にバーチャル空間上の展示会場としての「臨時駅」を造り、働く社会人や学生が日常的に使う電車にいつもと違う景色を加える。

概要

アーツカウンシルさいたまでは2022年10月の創立当初から、さいたま国際芸術祭の開催を契機として形成された市民サポーター活動を支援するための事業を実施しています。

毎月定例のサポーターミーティングの企画と開催、さいたま国際芸術祭2023におけるサポーター活動の多面的なマッチングやサポーターの発意に基づく自主活動の支援などとともに、市民サポーターによる「アート資源調査」を実施しました。

2021年度から取り組んでいる「アート資源調査」は、サポーター自らが市民の身近な文化拠点となっているアート系のギャラリーやカフェ等を訪問し、キーパーソンにヒアリングをしてレポートをまとめる市民が行う調査です。2023年度は、さいたま国際芸術祭2023の市民プロジェクト会場ともなった施設など、新たに5カ所について調査を実施しました。

市民サポーター事業

日時	会場	参加者数
4月21日 19:00~21:00	RaiBoC Hall 情報発信コーナー (さいたま市大宮区大門町 2-118 大宮門街)	24
5月19日 19:00~21:00	RaiBoC Hall 情報発信コーナー	26
6月23日 19:00~21:00	RaiBoC Hall 情報発信コーナー	30
7月21日 19:00~21:00	RaiBoC Hall 情報発信コーナー	23
8月18日 19:00~21:00 ※さいたまアーツセンタープロジェクトと合同開催	SACP BASE(氷川の杜ひろば) (さいたま市大宮区吉敷町 1-124-1)	31
9月22日 19:00~21:00	SACP BASE(氷川の杜ひろば)	35
10月20日 19:00~21:00	SACP BASE(氷川の杜ひろば)	28
全国芸術祭サポーターズミーティング inさいたま 11月4日 13:00~18:00	大宮区役所 201・202 会議室 (さいたま市大宮区吉敷町 1-124-1)	30
11月17日 19:00~20:30	SACP BASE(氷川の杜ひろば)	18
12月15日 18:30~20:30	RaiBoC Hall 情報発信コーナー	52
2024年1月19日 19:00~21:00	RaiBoC Hall 情報発信コーナー	20
2024年2月23日 18:30~21:00	RaiBoC Hall 集会室 8	33
2024年3月22日 19:00~21:00	RaiBoC Hall 情報発信コーナー	21

アート資源調査

2023年度調査先

- ・GAFU-gallery&space-(さいたま市南区別所3-21-4)
- ・TOROtoキッチン&コワーキングスペース(さいたま市北区土呂町2-12-20 コスモスクエア4階)
- ・コンドウハウス(さいたま市緑区三室680-1)
- ・師岡制作所(さいたま市見沼区膝子345-6)
- ・本と喫茶 夢中飛行(さいたま市大宮区高鼻町1-56 ks' 氷川の杜201)

概要

市民が自ら研究員となり市内外の文化芸術状況などを調査・研究する事業です。市民自らの視点で地域の文化芸術を考えること、さらに芸術祭のサポーターとして集う方々が、もう一步進んで、さいたままでの日常的な文化を観察、記録、考察するような活動を後押しすることなどを想定して企画しました。活動内容は、研究会とゲストを招いた公開研究会を軸に、アーツカウンシルさいたまのPD・POとともに意見や情報を交換しつつ、それぞれのテーマを深め成果として調査にレポートを発表するというものです。2024年1月から活動が始まり、2月には公開研究会を実施しました。文化政策研究者の吉本光宏さん(文化commons研究所・研究統括)をゲストに招き「市民が主導するアートプロジェクト」や「地域課題と向き合う文化拠点」について国内外の様々な事例や考察を伺い、後半ではPD・POと研究アソシエイトも交えた意見交換の後、会場で参加した方々も含めた議論を行いました。3月には研究会を経て、研究テーマ設定を行いました。2024年度以降、本格的な研究を行います。

事業名	日時	会場	概要
研究会	2024年1月25日	アーツカウンシルさいたま (さいたま市南区根岸 1-7-1 さいたま市文化センター内)	研究テーマの構想
公開研究会#1 講師：吉本光宏(文化commons研究所代表・研究統括)	2024年2月27日	RaiBoC Hall集会室8 (さいたま市大宮区大門町 2-118 大宮門街 6F)	テーマ「市民がイニシアティブを持つアートプロジェクト」「地域の課題に向き合う文化拠点」
研究会	2024年3月26日	アーツカウンシルさいたま	研究テーマの決定
研究計画書の提出	2024年3月28日	アーツカウンシルさいたま	研究計画書(案)に基づき、最終検討及びディスカッション
研究テーマの発表	2024年3月30日	GAFU -gallery&space- (さいたま市南区別所 3-21-4)	事業報告会にて実施

アソシエイト(研究員)の紹介

西田 祥子 / Shoko Nishida

「市民コラボレーター」が作るさいたまアートネットワーク調査プロジェクト

温盛 義隆 / Yoshitaka Nukumori

まちのアート系スペースの成立とその展開に関する研究

調査研究事業

概要

調査研究事業における情報収集の一環として全国各地のアーツカウンシル機能を有する組織のネットワークである「アーツカウンシル・ネットワークミーティング」に参加し、各地のアーツカウンシルと情報交換を行いました。

(第1回 7月14日、第2回 10月13日、第3回 2024年1月12日に開催)

このように収集した国内外における最新の取組事例などの情報を分析し、助成事業、相談窓口といった、アーツカウンシルで担う事業への活用や、助成金交付団体における成果の検証等、アーツカウンシルさいたまの運営に活かしていきます。

概要

アーツカウンシルさいたまが支援してきた文化の担い手や、運営や審査に携わった専門家たちが一堂に会し、活動の報告とフィードバックを行いました。2023年度アート資源調査先でもあるアートスペース「GAFU -gallery&space-」を会場に実施しました。

日時 2024年3月30日 14:00~18:00

会場 GAFU -gallery&space-(さいたま市南区別所3-21-4)

内容 活動発表①

●さいたま国際芸術祭2023市民プロジェクト公募プログラム事業実施者

フィードバック：滝口明子(公募プログラム審査員、うらわ美術館学芸員)、遠山昇司(公募プログラム審査員、さいたま国際芸術祭2020ディレクター、映画監督)

●さいたま国際芸術祭2023市民プロジェクト・キュレーター

フィードバック：小沢剛(アドバイザーボード委員、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授、美術家)、小林桂子(アドバイザーボード委員、日本工業大学先進工学部情報メディア工学科准教授)

その他の事業報告

- 市民サポーター事業
- 研究アソシエイト事業
- さいたま文化発信事業「空想するさいたま」

活動発表②

●文化芸術都市創造助成金「文化芸術を生かした地域活性化事業」採択団体

フィードバック：芹沢高志(アドバイザーボード委員長、P3 art and environment 統括ディレクター、さいたま国際芸術祭2023 プロデューサー)、石上城行(アドバイザーボード委員、埼玉大学教育学部教授、彫刻家)

●公募プロデューサー事業選定プロデューサー

フィードバック：小沢剛、小林桂子

クロストーク

アドバイザーボード委員、アーツカウンシルさいたまPD・PO



概要

広報活動の一環としてプログラムガイド「表現#1」「表現#2」を発行し、アーツカウンシルさいたまで行うイベントや公募情報について発信しました。その他、事業報告会では2023年度の事業内容をまとめた「アーツカウンシルさいたま2023年度記録集」を発行しました。

また、アーツカウンシルさいたまウェブサイトやFacebook・X等のSNSによりプログラム情報を広報したほか、SNSでは事業の様子なども発信しました。

発行物



- 「表現#1」(10月4日発行)
- さいたま国際芸術祭2023市民プロジェクト公募プログラムのお知らせ
 - アーツカウンシルさいたま研究アソシエイト募集
- 「表現#2」(2024年3月12日発行)
- さいたま国際芸術祭2023報告展示会～「見逃す、芸術祭。」をつかまえる～
 - アーツカウンシルさいたま2023年度事業報告会
 - 令和6年度さいたま文化芸術都市創造助成金のお知らせ
- 「アーツカウンシルさいたま2023年度記録集」(2024年3月29日発行)

アーツカウンシルさいたまの事業は大きく支援事業と創造事業、調査研究事業の3つに分けられます。支援事業では、助成だけでなく、悩みや課題に対する相談など、伴走的な支援を行いました。もちろん相談は助成団体に限らず受けられます。相談者が場と出会い、新たな活動を始めるようなことも起こり始めています。

創造事業として行っている市民サポーター事業では、サポーター同士が交流するだけでなく、アーティストのコラボレーション相手となったり、市内の「アート資源」を訪ね、レポートを執筆したりするなど大活躍しています。また、国際芸術祭に合わせて大宮の面白い人たちや拠点に焦点を当てたマップも作りました。一方、盆栽・漫画・人形・鉄道という市の文化資源を発信する事業として、東京藝術大学キュレーション教育研究センターと連携し、デジタル作品の制作やキュレーションのワークショップ「空想するさいたま」を行いました。作品とキュレーションで2つずつプランが採択され、次年度から順次制作を行う予定です。さらに「公募プロデューサー事業」では、滞在制作に取り組みました。本事業では特にパフォーマンスの団体が抱える稽古場問題(連続利用や装置運搬などの制約)に一石を投じたつもりです。そして、さいたま国際芸術祭2023では、公募プログラムや市民プロジェクトの制作も担当し、事業を通して様々な出会いが生まれました。

調査研究事業では、人材育成も兼ね、公募による「研究アソシエイト」を2名採用し、私たちとテーマを共有しながら、独自の研究を進めてもらっています。また、各地に設立が続く地域アーツカウンシル同士の情報交換なども積極的に行っています。

このような活動を通じて、豊かな生活都市としてのさいたまを芸術文化の側面から考え続けていきたいと思っています。

(プログラムディレクター森隆一郎)

2022年10月に設立したアーツカウンシルさいたまにとって、2023年度は実質のスタートの年でしたが、それにもかかわらず助成金事業では多くの団体から応募をいただき、採択団体のリストからは市の文化的土壌の豊かさを感じることができます。個々の活動を見てみると、特に音楽分野でオーケストラや合唱等が多く、アーティストとしてプロ活動をしている団体もありますが、愛好家による市民オーケストラや地域の名前が冠された合唱団が非常に多いのが特徴的です。地方都市ではアーティストが少なく文化芸術振興の課題になることもありますが、さいたま市は、交通アクセスがよく、芸術分野を学べる学校が多数ある東京へも通学圏内であるため、専門的に文化芸術を学んだ後ライフワークとして活動を続けている人が多いのではないかと推察します。愛好家人口の多さは、さいたま市の地理的特色に基づく文化資源のひとつといえるかもしれません。

アーツカウンシルさいたまとして、このような活動が個人の愉しみのみにとどまらず、他者にも文化芸術がもたらす豊かさが伝わり、ひいては地域全体の生活を豊かにしていけるよう、各団体の活動のスキルアップを支援していきたいと思っています。

(プログラムオフィサー三田真由美)